

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台市若林図書館
2	指定管理者	株式会社 ヴィアックス
3	指定期間	平成27年4月1日 ～ 平成30年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 平成29年度：165, 505人団体〔個人：165, 102人、団体・文庫：403団体〕（前年度比 97.1 %） 平成28年度：170, 382人団体〔個人：170, 022人、団体・文庫：360団体〕 平成27年度：180, 866人団体〔個人：180, 589人、団体・文庫：277団体〕
		《事業》 定例おはなし会、赤ちゃんおはなし会、特別おはなし会、映画上映会、情報リテラシー支援講座、新寺こみち市「ヤギさんおはなし会」、図書館見学ツアー、夏休み宿題お助け隊、仙台市博物館連携事業「歴史の＜ものがたり＞と仙台伊達騒動の＜ものがたり＞」（講話）、ビブリオバトル、ワカチュウ子どもランド、図書館探検クイズ、絵本でめぐる世界「世界の絵本展」、赤ちゃんと楽しむ絵本とわらべうたの会、読書ビンゴ、ぬいぐるみおとまり会、仙台ゆかりの作家展等、様々な市民対象イベントの実施 仙台市内小・中学生対象のブックトークや中学生や適応指導教室通級者を対象にした職場体験の実施 など
5	収支の状況	《費用》 （ ）は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 91, 163千円 （ 91, 163千円） ・ その他市が負担した費用 17, 167千円 （ 17, 044千円）
		《収入》 ・ 使用料収入 千円 （ 千円） ・ その他収入 30 千円 （ 44千円）
6	利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート 実施期間：平成29年12月10日（日）～12月23日（土祝） 回答者数：508人 利用者懇談会 開催日：平成30年2月16日（金） 参加者数：12人

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	図書館の設置目的を踏まえて策定された、施設運営上の基本方針に基づき管理運営されており、全館共通の業務や行事も適切に行われている。サービスの質の向上や利用促進のための取り組みもなされている。	S
II 施設の運営管理体制	職員の勤務実績や配置状況、また、施設の開館状況は仕様書のとおり適切である。指定管理料も適正に執行されている。個人情報の取り扱いについて、イベントチラシに収集した個人情報を目的外使用しない旨明記されている。情報システムのセキュリティ対策については徹底している。危機管理マニュアルを作成し研修も実施している。災害発生時の訓練も関係機関と合同で適切に実施されている。ヒヤリ・ハット集を作成している。	S
III 施設・設備の維持管理	備品台帳が整備されており、物品および設備は適切に管理されている。環境へ配慮した取り組みがなされている。	S
IV サービスの質の向上	利用者特性に配慮した分かりやすい掲示物・広報物等の作成や丁寧な接遇によりサービスの向上に努めている。スタッフミーティングの実施や、業務上の注意事項をまとめた資料を作成するなど、サービス水準の確保に取り組んでいる。必要な研修の機会も設けられており、スタッフミーティングで研修参加者による報告が行われている。	S
V 施設固有の基準	カウンター業務は適切に行われている。書架整理や選書支援については、利用状況や蔵書構成を把握しながら蔵書管理に取り組んでいる。自主事業は、民間のノウハウを生かしたユニークな事業を種々企画・実施している。若林文化センターや地元企業等の外部機関との連携のほか、地域イベントの「新寺こみち市」に出張おはなし会に参加する等地域団体との連携を積極的に進めている。参加者へのアンケート結果をもとに事業内容について検証を行い、次回に活かそうとしている。	S

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み		取組み状況
1	読み聞かせボランティアサークル「ほんわか」への活動支援	仙台市図書館振興計画が推進する「0歳から読書に親しめる読書文化を育む」施策の一環として、地域のボランティア育成・支援に取り組んだ。平成28年度、「読み聞かせボランティア養成講座」修了者による読み聞かせボランティアサークル「ほんわか」が立ち上がり、図書館の定例おはなし会などでの活動を開始した。サークルの定例会へ職員を出席させ、読み聞かせボランティアサークルの育成や活動支援を行い市民協働の推進を図った。
2	第一回ピブリオバトル中学生大会	地域の中学校と連携し、課題となっているヤングアダルト世代への読書支援の充実を図るため、区内の6中学校に出向き、パトラー(発表者)の推薦を依頼した。ピブリオバトルで紹介されることにより、資料の貸し出し促進につながった。
3	文学講座「只野真葛の世界」	大人向けの文学講座として、仙台縁の女性文学者・只野真葛を取り上げ、その足跡をたどるとともに、作品の朗読を通して興味を喚起し、作品に親しむ機会を創出し、図書資料の利用促進を図った。

加点評価	A
------	---

四 評価総括

《指定管理者(株式会社 ヴィアックス)による自己評価》	
<p>平成29年度は、『仙台市図書館振興計画(第二次)』に掲げられている基本方針・方向性に基づき事業計画を策定し、若林図書館の持つ特徴、地域特性を生かし、「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を目標に運営を行った。</p> <p>1.基本業務では、利用者数に合わせた適切な人員を配置するとともに、利用者目線に立ったきめの細かい接遇を心がけるよう努めた。</p> <p>2.自主事業では、引き続き地域と連携した事業を中心に取組み利用促進を図った。「読み聞かせボランティアサークルほんわか」の活動場所を提供し、市民協働の推進を図るとともに、新寺こみち市での「ヤギさんおはなしかい」をはじめ、のびすく若林や区内の子育て支援サークルなどへの出前おはなし会を実施し、積極的に地域との連携を図った。指定管理者の持つ独自の事業としては、仙台に縁のある女性文学者を取り上げた「文学講座 只野真葛の世界」や児童向けに「夏休み宿題お助け隊」、「ぬいぐるみおとまり会」などを実施した。「絵本作家講演会」では、児童だけでなく大人の参加者も多く、幅広い年齢層の方にご参加いただくことができた。平成29年度の新たな事業としては、閉館後の図書館を利用した「夜の図書館ボエトリリーディング」を実施し、利用者からも新たな試みに好評をいただいた。学校連携事業としてはブックトークを若林区及び周辺の小中学校で実施したほか、図書館見学、職場体験を各学校からの要請に応じて実施した。また、8月には若林区内6中学校から参加者を募り、「第一回ピブリオバトル～中学生大会～」を実施し、参加者・観覧者ともに満足度の高い事業となり、YA世代への利用促進につなげることができた。</p> <p>3.利用実績は利用者数・貸出冊数ともに28年度に対し約96%の実績であった。利用減少の要因としては平成27年3月中旬より行われている「若林区中央市民センター別棟複合施設改築工事」の影響が挙げられる。若林区役所来庁者用の駐車スペースが大幅に減少したため、若林区文化センター地下駐車場の利用が増加しており、満車となることが多くなり、図書館利用者の自動車での来館に支障が出ていることが利用減少の要因と考えている。また、3月には「若林区文化センター館内非常放送設備更新工事」に伴い2週間の休館期間があったことも利用減少の原因となった。利用者数・貸出冊数は減少となったが、指定管理者での運営以降に開館延長した時間帯での利用者は増加傾向にあり、多くの方に認知されてきており、利用者の滞在時間は伸びていると考えられるので、引き続き利用者が利用しやすい館内の環境整備に努める。</p> <p>4.職員に対する研修は、「図書館の聴覚障害対応実践-手話基礎講習-」、「個人情報保護研修」などの指定管理者独自の研修のほか、仙台市図書館主催の研修への参加や宮城県図書館主催の研修への参加を積極的に行い、専門性の向上を図っている。また、業務上のミスや利用者からのご意見・クレームをまとめてヒヤリハット集を作成し、職員全員が共有することで利用者サービスの向上に努めている。</p> <p>5.運営の評価については、市民図書館による定例監査のほか、利用者アンケートや利用者懇談会、各種事業を実施する際に行うアンケートでの意見を参考にした。さらに、アンケート結果や懇談会出席者からの意見は職員全員で共有し改善に努めている。特に利用者アンケートは回収枚数が年度毎に増加しており、集計結果から利用者の若林図書館に対する関心と満足度の高さをうかがうことができる。</p> <p>6.施設管理は、若林区文化センターとの連携により効率的に実施することができた。館内整備として、施設西側の老朽化したブラインドの修繕ができない部分に関して、ウインドフィルムを設置し防犯対策を実施したほか、分散して配架されていた震災文庫・大活字本をまとめて書架を設置し、利用者の動線に沿った位置に配置換えを行うなど、利用者にとって快適な読書環境を提供する取組みを行った。</p>	

《施設設置者(仙台市)による評価》		総合評価
<p>指定管理運営3年目である平成29年度は、引き続き多彩な自主事業に取り組んだ。中でも、地域イベント「新寺こみち市」における「ヤギさんおはなしかい」の継続、企業連携として地元球団から講師を招いてのスポーツ講演会や、若林区文化センター・区中央市民センターとの連携事業など地域のつながりを重視した事業展開を行った。また、地元中学校図書委員による「おすすめ本展示会」、若林図書館職員による手作り講座の開催など、幅広い層が参加できる事業を行うことで、多くの市民にとって親しみの持てる図書館づくりに取り組んだ。</p> <p>施設の運営面では、適正な施設管理・運営が行われていた。施設西側の老朽化したブラインドの修繕ができない部分に関して、ウインドフィルムを設置し防犯対策を実施したほか、分散して配架されていた震災文庫・大活字本用書架を新たに設置し、利用者の動線に沿った位置に配置換えを行うなど、利用者にとって快適な読書環境を提供する取組みを行い、サービスの向上に努めた。また、利用者アンケートや利用者懇談会を実施し、利用者の意見・要望を次年度の事業計画に役立てている。</p> <p>平成29年度の利用者数は前年度に比べて減少したが、これは、平成27年3月中旬より始まった「若林区中央市民センター別棟複合施設改築工事」により、若林区文化センター来庁者用の駐車スペースが大幅に減少したことが個人利用者数の減少に影響していると推測されるが、団体・文庫の利用者数は年々増加しており、限られた条件の中で、一定の成果を上げていると考える。</p> <p>同指定管理者は、平成30年度も引き続き若林図書館の運営を行うことになっており、今後もより一層、民間のノウハウを活かした図書館利用促進にかかる事業実施による利用拡大とともに適正な施設運営を期待する。</p>		S